

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	集計結果	備考
1 地域の食や農業、環境問題に積極的にに関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の食・農・環境について関心を持ち、理解を深めるための講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	【成果指標】 ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まっている。	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	おいに高まった23.9% ある程度高まった46.1% 関心が高まった合計 70.0%	「おいに高まった」23.9%と「ある程度高まった」46.1%を合わせると、70.0%であった。昨年度は、前者が27.7%、後者が41.3%、合計69.0%となっており、昨年度の数値を約1ポイント上回った結果となりB判定であった。年次別の結果では、1年次が66.0%、2年次が68.5%、3年次が79.5%であった。 1年次には、農業科目「農業と環境」や「総合実習」での講演会等を通して、石川の食・農・環境について関心を喚起させる取り組みを行うことができた。2年次以降は、コース及び分野別に分かれるので、それぞれのコース及び分野の特徴を生かした授業や講演会等を企画し興味・関心が高まるよう次年度以降も努めていきたい。また、ロングホーム等特別活動の時間も有効に活用しながら年次でも興味関心をさらに高め、いしかわの食・農・環境に理解が高まるよう取り組んでいきたい。
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満			B
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業専門高校として、いしかわの食・農・環境について関心が高いのは喜ばしい。農業クラブの発表などの活動も効果が高いと思う。</li> <li>地域との連携など地道な活動の積み重ねが大切だと思う。本校での学びによって家庭でも菜園の管理を手伝うなどの成長も見られる。</li> <li>環境美化にしっかりと取り組んだと答えた生徒が多いことは素晴らしい。社会に出てからも大切な素養であるため意識を高めていって欲しい。</li> </ul>						
校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根差した専門高校として、関係機関と連携しながら、これまで以上に活動や研究、商品開発等に取り組んでいきたい。</li> <li>DXハイスクール事業への取り組みをはじめ、ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まるように様々な機会を通して指導していきたい。</li> <li>日々の清掃活動や環境美化運動を継続して実施し、奉仕や社会貢献の心を育てていきたい。</li> </ul>						

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 2

2	学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	①	朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身につけると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	翠星タイムを通して、基礎学力が向上したと思う生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	よく身に付いた 24.8% ある程度身に付いた 59.5%  身についた合計 84.3%	朝学習（翠星タイム）によって、基礎学力を身につけることができたかという問いに対し、「よく身に付いた」及び「ある程度身に付いた」と答えた生徒の割合が、8割を超え、B判定となった。判定は、昨年度に引き続き同じだが、中間報告の時点から1ポイント下降したが、昨年度と比して2.3ポイント上昇した。 昨年度導入のスタディサプリの利用によって、基礎学力向上が実感できたのではないかと推測される。	
		②	研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを知ること、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と感じている生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	分かりやすい授業が 8割以上 23.6% 6割以上 55.1%  わかりやすい授業の合計 78.7%	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は、中間報告時の81.8%に対して、今回78.7%と2ポイント下がったものの高いレベルを維持している。「分かりやすい」と満足している生徒が多数いることから、今後も教員の授業に対する工夫と改善の積み重ねを継続するとともに、満足度が6割に満たない生徒への支援も策定する必要がある。 今後とも、授業研究週間や公開授業等を積極的に活用するとともに、生徒全員に配付された端末を活用した授業改善を進めていきたい。	
		③	3年間を見通し、各年次に応じた計画的・自律的な学習を行い、明確な進路目標を持ち、その実現のための意欲が旺盛な生徒を育成する。	進路指導課 各年次 各学科	【成果指標】 就職や進学において、生徒の進路実現を図る。	各学年に応じて、明確に進路目標を掲げた生徒、進路実現を達成した生徒が A 100%である B 95%以上100%未満である C 90%以上95%未満である D 90%未満である	B	明確な進路目標を掲げた生徒 1年生 99% 2年生 95% 3年生 99%  全体平均 97.8%	1・2年次生は12月の進路希望調査、3年次生は2月末日時点での進路決定状況の百分率が左記のようになっており、今年度の最終評価はB判定であった。就職・進学の内訳を見ると、3年次生は就職62名、進学43名、家事従事1名、2年次生は就職希望86名、進学希望58名、1年次生は就職希望76名、進学希望78名であった。1・2年次においては、それぞれ中間報告を上回っており、年次進行でも取り組んでいる各種ガイダンスや進路講話の成果がみられている。次年度以降も生徒個々の希望に沿った進路実現を目指し、粘り強く指導していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を高めることが大切であり、生徒が学習に興味関心を持てるように授業を工夫してほしい。勉強の苦手な生徒には十分なサポートを。</li> <li>生徒の模擬面接の様子を見ると、とてもしっかりしている印象だった。生徒の進路実現に向けた取組をさらに充実してほしい。</li> <li>進路実績について成果が見られることが素晴らしいと思う。今後とも生徒を指導してもらいたい。</li> </ul>								
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習や考査前・長期休業中の補習を含め日々の学習活動を通して、生徒個々の基礎学力の向上に努めていきたい。</li> <li>教員同士の互見授業や校内教員研修を通して、授業改善や新しい知見の導入に努めたい。</li> <li>生徒個々の進路実現に向けて、年次、コース・分野、進路指導課が連携し、組織的・計画的に取り組んでいきたい。</li> </ul>								

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	集計結果	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	① 教職員から積極的に挨拶を行い、始業・終業時の挨拶に統一を徹底する。登校指導でも指導する。また、農業クラブによる啓発活動を実施し、朝の挨拶への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 自発的に挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	いつも挨拶をしている34.4% 少しづつ挨拶をできるようにしている40.5% 自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の合計 74.9%	後期学校評価アンケートの結果によると、いつも大きな声で挨拶をしていると答えた生徒が34.4%、少しずつ大きな声で挨拶ができるようにしていると答えた生徒が40.5%、挨拶はするが声はまだ小さいと答えた生徒21.1%、ほとんど挨拶はしないと答えた生徒は2.7%となった。 前期と比較すると、自発的に大きな声で挨拶をしている生徒が1.7%増えている。まだ、目標の数値には達していない。今年度は更に廊下などで人とすれ違った時には、挨拶をしようと呼び掛けたところ廊下で大きな声で挨拶を交わすようになった生徒が増えてきておりこの習慣が遅刻指導にも役立つようにしていきたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。また、農業クラブや公安委員会による啓発活動を実施し、無遅刻への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	しっかり身についている 42.9% ある程度身につけている 46.1% 基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の合計 89.0%	後期学校評価アンケートの結果によると、しっかり身につけていると答えた生徒が42.9%、ある程度身につけていると答えた生徒が46.1%、少しは身につけていると答えた生徒が18.5%、身につけているとは決していけない6.5%となった。基本的な生活習慣が身につけていると答えた生徒は89.0%となった。 前期と比べると若干下がっているが1年生が学校に慣れてきて生活習慣が崩れている部分があるように感じる。しかし、昨年度と比べると2.1%増えている。今後も生徒の進路実現のために基本的な生活習慣の確立を目指していきたい。
	③ 集会・HRなど様々な機会を通して、他者への敬愛と協力を尊重する姿勢や態度を育て、いじめ等の防止に繋げるために全教職員が連携している。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 アンケート結果により、いじめの防止に向けた取組を全教職員で連携して行っている。	「いじめがなく安心・安全な学校である」と感じている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	D	第5回いじめアンケート調査で「いじめがなく安心・安全な学校である」の質問に「あてはまる」57.0%、「あてはまらない」5.1%、「わからない」37.9%となった。 「あてはまる」57.0% 「あてはまらない」5.1% 「わからない」37.9%	第5回いじめアンケート調査の結果、「いじめがなく安心・安全な学校である」の質問に「あてはまる」57.0%、「あてはまらない」5.1%、「わからない」37.9%となった。いじめ防止の啓発やいじめアンケート調査を5回行うなど細心の注意を行っていたが、今年1年でもいじめ案件が数件出ており、まだ、啓発活動や注意喚起が不足していると感じた。今後は、全職員、生徒が一丸となっていじめ防止の呼びかけを強化し、観察の徹底を行う必要がある。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や基本的な生活習慣の確立は社会人としての礎となる。学習だけでなく社会人としての様々な素養を身につけさせてほしい。</li> <li>生徒個人個人の個性にも目を向け、元気でおおらかな翠星高校生徒の良さを伸ばしてほしい。</li> <li>いじめの問題はどこにでももあるが、重症化する前に孤立している生徒やケアが必要な生徒を早めに見つけてケアに努めてほしい。</li> </ul>						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行、遅刻指導など基本的な生活習慣の定着を目指して継続的な指導に取り組んでいく。</li> <li>全教職員が生徒の様子に目を配り、早期発見と対応に努めるとともに、様々な機会を通して生徒を諭し根絶に向けた取り組みを行っていく。</li> </ul>						

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 4

4	タイムマネジメントに基づき、効率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	①	ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	積極的に取り組んでいる 41.7% ある程度取り組んでいる 36.4% 課外活動に積極的に取り組んでいる生徒の合計 78.1%	生徒向けアンケートの結果によると「積極的に取り組んでいる」が41.7%、「ある程度積極的に取り組んでいる」が36.4%で、あわせて78.1%となり、B判定になった。 運動部、文化部、研究会ともに全体的に活動が活発になってきており、積極的な取り組みがみられるようになってきた。その結果、昨年度よりも大会や練習試合などの出場数が増え、好成績を残せる部・研究会も出てきた。 今年度、北信越ブロック大会プロジェクト発表会において全3分野で最優秀賞を受賞した。また、農業クラブ全国大会においては、プロジェクト発表会で3チームが出場し、1つが優秀賞を獲得した。 来年度に向け、生徒や研究会が地域に根ざした活動を行い、積極的に活動できるよう支援に努めていきたい。	
		②	農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び関連分野に対する関心及び学習意欲を高める。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が増加している。	農業クラブ活動への参加を通じて専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	大いに高まった 21.0% ある程度高まった 43.4% 農業や専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の合計 64.4%	生徒向けアンケートの結果によると「おおいに高まった」が21%、「ある程度高まった」が43%で、あわせて64%となり、中間評価時よりも10ポイント上昇し、B判定になった。今年度は農業クラブ全国大会にプロジェクトチームが3チーム出場するなど、農業クラブ活動に対する関心が高まったと思われる。 農業クラブ活動に対する関心の高まりを維持しつつ、農業科の教員だけでなく、全職員が一丸となって、農業クラブ活動や専門分野に対する学習意欲を高めていきたい。	
		③	統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A 75%以上 B 60%以上 75%未満 C 50%以上 60%未満 D 50%未満	B	超過勤務ガイドライン上限である45時間を下回る職員の割合 69.8%	4月から1月までの10か月を集計したところ、45時間を下回った職員は、のべ321名（69.8%）であった。一方、過労死ラインの目安となる80時間を超えた職員が41名（8.9%）、そのうち100時間を超えた者が17名（3.7%）いた。80時間を超える長時間勤務者は、昨年度よりは微減した。 長時間労働は国が掲げる働き方改革の中でも重要な課題のひとつであるが、本人や家族のためにもメリハリのある効率的な業務改革を勧め、特定の個人に負担が及ばぬよう組織的な対応に取り組み、今後も超過勤務の軽減に努めていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の部活動は地域のクラブに移行しつつある。スポーツ以外にも興味関心のある生徒もおり、そういった生徒も活躍の場があるとよい。</li> <li>・研究会活動をはじめとする農業クラブ活動を今後も積極的に取り組んでほしい。様々な方面で活躍しており、若い力は頼もしい限りである。</li> <li>・働き方改革は世の流れであり、先生方の丁寧な指導には感謝しているが、自身の健康も大切にしてほしい。</li> </ul>								
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業クラブ活動でも全国大会に進むなど成果が得られた。今後とも生徒の意欲を引き出し、授業だけでなく課外活動でも活躍できる場を増やしていきたい。</li> <li>・喫緊の課題である多忙化の改善に向け、教職員の業務の見直しを積極的に推進し、組織的な対応を図ることで時間外勤務の縮減に努めていきたい。</li> </ul>								